

MPA 療法に伴う子宮内膜全面搔爬後、高度な内膜菲薄化を認めたが妊娠に至った 1 例

藤原 奨¹, 矢嶋 秀彬¹, 門上 大祐¹, 太田 志代¹, 勝 佳奈子¹, 森本 真晴¹, 山内 博子¹,
中岡 義晴¹, 森本 義晴²

¹IVF なんばクリニック ²HORAC グランフロント大阪クリニック

【緒言】近年、我が国において、若年性子宮内膜癌の発生率が増加している。若年性子宮内膜癌患者が妊孕性温存を希望した場合、メドロキシプロゲステロンアセテート(MPA)療法がおこなわれる。しかし、再発後に妊孕性を温存する場合は頻回に子宮内膜全面搔爬術(D&C)も行われるため、子宮内膜の菲薄化や子宮内腔の癒着に対応する必要がある。今回体外受精治療中に MPA 療法を 3 回、D&C を 8 回施行後、高度な内膜菲薄化を認めたが妊娠に至った 1 例を経験したので報告する。

【症例】

39 歳 0 妊、5 年前に子宮体癌 I A 期(類内膜腺癌 G1)と診断された。MPA 療法で寛解後、前医で体外受精を行ったが妊娠に至らず当院に転院となった。当院ではホルモン補充周期で良好胚を使用した単一胚盤胞 1 回、2 段階胚移植 3 回、胚盤胞 2 個移植を 2 回行ったが妊娠に至らず、その間に 2 回の再発を認めた。2 回目の再発後(合計 8 回 D&C 施行)から内膜厚 5.0mm 前後と高度な内膜菲薄化が生じた。

子宮内フローラ検査、子宮内膜着床能検査といった着床に関連する検査に異常はなかった。

タダラフィル併用、高用量ホルモン補充周期下でも移植前の内膜は 5.0mm と内膜厚は改善しなかった。移植前周期に子宮鏡で子宮内腔観察および子宮内洗浄と移植周期に G-CSF 子宮内注入を実施した後に良好胚盤胞 2 個移植を行い妊娠が成立した。現在妊娠継続中である。

【考察】

今回、若年性子宮内膜癌に対する MPA 療法は奏効したが、再発を繰り返したため頻回の D&C により内膜が高度に菲薄化した反復着床障害症例。頻回の D&C で子宮内膜損傷による菲薄化が生じた場合、子宮鏡による子宮内洗浄と G-CSF 子宮内注入が子宮内の着床環境を改善し、内膜が菲薄した状態でも妊娠成立に有用な可能性がある。